

特集 産婦人科手術のポイント

——第29巻 第12号——

手術は、解剖学、病態生理、外科総論などの観点からの合理性が要求される。1次予後が良好でなければならないのはもちろん、2次（長期）予後も良好であるような十分な配慮が必要であることはいうまでもない。そして、その手術が患者にとつてもつとも幸福になることにつながるか否かを考察し、適応、術式、術中・術後管理の方式などが決定されなければならない。

手術は、技術である以上、巧妙で熟達したものでなければならないのは言をまたないが「手術は手だけでするものではなく、頭でするものだ」という先人のことばにもあるように、理論的にも合理的であることが要求されるわけである。さらには、「心」も必要なようで、患者の幸せを追求する humanism の精神も貫ぬいていなければならない。その意味では、芸術でもあるといわれるのも、首肯しうるのである。

このような立場から、わが領域のみならず関連領域の刀圭家をお願いし、苦心してあみだされた精髓について、見開き2頁を原則として、次のような項目について、記述していただいた。

- I. 産婦人科手術の基本手技
- II. 術前・術後の注意・管理（5項目）
- III. 麻酔と輸液・輸血（4項目）
- IV. 手術の適応と術式の選択（10項目）
- V. 手術手技—婦人科（31項目）
- VI. 手術手技—産科（21項目）
- VII. 手術手技—境界領域（5項目）

内容をみると、すべて珠玉篇ともいえる立派なものである。この内容から多くの学ぶべきことを見出すであろうと信ずるが、なかには納得しがたい点も当然含まれているに違いない。しかし、各人が自分の考えにしたがつて取捨選択し、自分なりのポイントとして整理しておくのに、非常に役立つものであると信じている。

＜編集委員＞ 坂元正一・竹内正七・橋口精範
東條伸平・鈴木秋悦